

## 論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 工 学 ）	氏名	劉 娜																				
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当																						
<p>論 文 題 目</p> <p>広島県の観光景観画像に対する心理的評価に文字情報付与が及ぼす影響  (The Influence of Text Information on the Psychological Evaluation of Tourism Landscape Images in Hiroshima)</p>																							
<p>論文審査担当者</p> <table border="0"> <tr> <td>主 査</td> <td>教 授</td> <td>西名 大作</td> <td>印</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>教 授</td> <td>田中 貴宏</td> <td>印</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>准教授</td> <td>金田一 清香</td> <td>印</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>准教授</td> <td>角倉 英明</td> <td>印</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>准教授</td> <td>水田 丞</td> <td>印</td> </tr> </table>				主 査	教 授	西名 大作	印	審査委員	教 授	田中 貴宏	印	審査委員	准教授	金田一 清香	印	審査委員	准教授	角倉 英明	印	審査委員	准教授	水田 丞	印
主 査	教 授	西名 大作	印																				
審査委員	教 授	田中 貴宏	印																				
審査委員	准教授	金田一 清香	印																				
審査委員	准教授	角倉 英明	印																				
審査委員	准教授	水田 丞	印																				
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>近年、観光は世界各国において重要な産業として位置付けられ、少子高齢化が著しく、産業基盤の弱体化が進行する我が国においては、経済の重要な柱として成長しつつある。特に訪日外国人観光客によるインバウンドの経済効果が大きいことから、東京や大阪などの大都市圏のみならず、地方振興の切り札としての役割がますます重視されてきている。中でも訪日外国人観光客としては中国人の増加が著しいことから、彼らの訪問先としての地方の地位の確立が急務となっている。</p> <p>以上のような観点から、本論文では、中国人観光客の訪問意欲を喚起する情報のあり方について、写真等の直接的な画像情報のみならず、それらと同時に呈示されることが多く、観光地の潜在的な魅力を伝える文字情報に着目し、その中国人に及ぼす効果を、日本人との比較から明らかにしようとするものである。本論文は6章によって構成されている。</p> <p>第1章では、研究の背景と現状の問題点を示すと共に、景観評価における評価者の文化的背景の違いや、外国人旅行者による観光地、並びに、観光情報に対する評価の観点から既往研究を概観し、本論文の位置づけと研究目的について述べている。</p> <p>第2章では、先行研究における、広島県の観光景観画像を対象とした心理的評価実験と、本論文で実施した、それらに文字情報を加えた同様な実験の概要について記述し、観光景観画像と文字情報の具体的内容、さらに、被験者に採用した日本人学生と中国人学生の個人特性について示している。</p> <p>第3章では、先行研究の画像のみを呈示して求めた心理的評価と、画像に文字情報を付与し求めた心理的評価の結果を相互に比較し、文字情報付与により、多くの観光景観で訪問意欲が喚起されること、イメージ評価の因子分析より得られた固有性、開放性、伝統性、調和性の4因子のうち、文字情報付与の影響が固有性と調和性で大きいこと、さらに心理</p>																							

的評価項目間の関連を説明する共分散構造分析の結果から、日中、あるいは、文字情報の有無にかかわらず、固有性が訪問意欲に及ぼす影響が大きいものの、文字情報付与により中国人では「日本の特徴」と固有性との関連が増すのに対して、日本人では逆の傾向がみられることを示している。

第4章では、文字情報のみを呈示した場合と、追って文字情報に併せて景観画像を呈示した場合との心理的評価結果を比較し、画像呈示による文字情報の捉え方の変化について検討しており、日本人では訪問意欲がより喚起されるのに対して、中国人では逆の傾向を示すこと、個々の文字情報に対する評価も影響を受けるが、知識や経験を有する日本人は、評価傾向がより安定していること、さらに、美食やスポーツ等の体験、想像を超えた規模等に関する情報を高く評価する傾向は日中で共通するものの、中国人は広島県というより日本ならではの情報を、日本人は予備知識の存在により初めて理解可能な情報をそれぞれ重視することを示している。

第5章では、文字情報のみを呈示した場合の個々の文字情報に対する評価に基づいて、中国人被験者を3グループに大別し、それぞれの評価傾向を整理している。その結果、日本に対する知識や経験が豊富なほど、希少性や成り立ち等の潜在的な情報を高く評価し、それらが訪問意欲に及ぼす影響も強く、単純な珍しさから建築的・文化的要素により着目するといった傾向を示している。

第6章では、得られた知見から、中国人の訪問意欲を喚起する情報のあり方について整理し、活用方法を検討すると共に、今後の課題について述べている。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（工学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。